



永井先生からのメッセージ No.21

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～



2024年 5月10日 野毛山幼稚園

【幼稚園】自分でできることは自分でする。

【1・2年】自分のやるべき勉強や仕事を
しっかりと行うこと。

【3・4年】自分でやろうと決めた目標に向かって、
強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。

【5・6年】より高い目標を立て、希望と勇気をもち、
困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

文部科学省・学習指導要領より抜粋

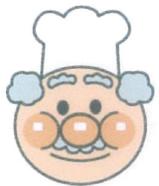
- ①やりたくない ②めんどうくさい ③だれかやってよ
- ④なんでやらなきゃいけないの ⑤大変なことはイヤ
- ⑥先生がいればがんばるけど、家ではやりたくない
- ⑦自分には無理 ⑧いつかできるようになればいい
- ⑨できないことを知られると恥ずかしいからやらない
- ⑩ごほうびがあればがんばるけど、ないならやらない
- ⑪やる気満々は最初だけ ⑫努力しても無駄かも
- ⑬偉い人と自分は違う ⑭どうせ私は…などなど

【アンパンマン と バイキンマン】

▶どんな人も、「よい心」と「悪い心」をもっている。だから、「よい心」も「悪い心」も大切にした話を作ろう。そんな願いから生まれたのが、『それいけ！アンパンマン』。パンづくりにイースト菌が欠かせないように、アンパンマンにはバイキンマンが大切で欠かせない存在なのです。（菌が全滅したら人類は生きていけない）

▶『よい心』と『悪い心』という窓からは、いろいろな子どもの姿を見ることができますが、今回は、4月号で取り上げた『自分でできる』ということにスポットを当ててみました。

▶「①～⑯」。まだまだ書ききれませんが、大事なことは、次の2つだと思います。



①「本音」とも言える「①～⑯」を、「バイキンマン」のように大切にし、共感的に受け止めていきましょう。

②その上で、「①～⑯」をおさえる「アンパンマン」のような心の力(やる気＆がまん)を育てていきましょう。

Episode

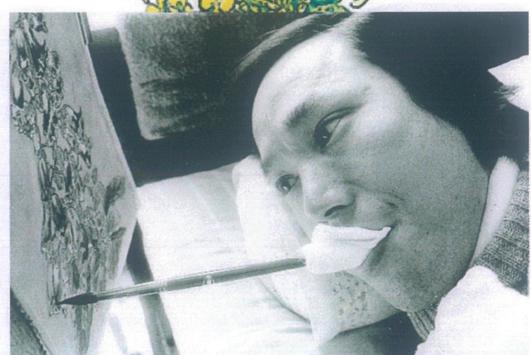
～詩画作家・星野富弘さんを偲んで～

▶『Yくん』は、野毛山幼稚園・第34回の卒園生(くるみ組)。彼との出会いは、5年生担任になった平成元年。35年前。

▶その彼から、4月30日、久しぶりのLINEが届きました。
「お元気ですか。星野富弘さんが亡くなられたようで……」

▶昭和の終わり。『星野富弘』という人物を知り、感銘を受けている私は、『Yくん』たちに半ば強引に、星野さんの作品や映像を見せていました。「バイキンマンに負けず、アンパンマンのようなやる気＆がまんを」という願いから。……それはともかく

▶彼からのLINEを見た瞬間に感じたことは、訃報の驚きよりも「遠い昔に学んだことを、今でも忘れずにいてくれる」ということへの感謝でした。さすが、「野毛山育ち」。



かのくわのうに

おとこひのむすめにあらはるだ

しがし菜の花

えいがれ井出

花を咲かせ

じまに咲くと

水を飲んでる

向光を受けてる

強き風に吹かれて

